

「令和4年度 第1回 豊橋市地域公共交通活性化推進協議会」議事録

○日 時 令和4年6月2日（木）午後2時から

○場 所 豊橋市役所 講堂

○出席者 別紙「出席者名簿」参照

○傍聴人 0名

○事務局 8名

〔会議資料〕

◆次第

◆出席者名簿

◆豊橋市地域公共交通活性化推進協議会規約

【資料1】令和3年度事業経過報告及び収入支出決算について

【資料2】企業シャトル BaaS 社会実験事業の実施に伴う
令和4年度変更収入支出予算（案）について

【資料3】前芝地区「地域生活」バス・タクシーの臨時運行について

【資料4】令和5年度豊橋市地域内フィーダー系統確保維持計画（案）の策定について

【資料5】「夏休み小学生50円バス」の実施に伴う運賃の変更について

【資料6】東部地区「地域生活」バス・タクシー停留所名称の変更について

【資料7】豊橋市地域公共交通網形成計画に基づく令和3年度実績及び
令和4年度予定について

【資料8】地域運営団体の取組の報告について

議 事

1. 開会

- ・本日の議事録署名者として委員2名が会長より指名された。
- ・今回の議事の内容あるいは進行の過程の中で、非公開事項に関するところがあるかどうかの確認がされた。（非公開事項に関する事項はなし）

2. 議題

○協議案第1号 令和3年度事業経過報告及び収入支出決算について

・事務局より、令和3年度事業経過報告及び収入支出決算について、【資料1】に基づき説明が行われた。

・監事より監査結果の報告が行われた。

(監事)

・令和3年度豊橋市地域公共交通活性化推進協議会の収入支出決算については、4月28日に監査したところ、いずれも適正に処理されていることを認めたので、ここに報告する。

(質疑等)

(委員)

・事業費で41万1千円の予算に対する差額が出たということだが、どういう理由やどのような項目だったか教えていただけないか。

(事務局)

・41万1千円の流用の原因をお聞きいただいたのか。

(委員)

・事業費の方で予算に対してそれほど使わなかったので、41万円くらいの差額が出て、それを運営費に回して精算したということだったと思ったが。

(事務局)

・行う予定の事業が行えなかったため、その分負担金の精算として返している。具体的には最終バスの時間を伸ばす終バス事業があったが、コロナの影響で全く行えなかったため、使いきれなかった事業費が生じた。

・議長から協議案第1号について諮ったところ、全会一致で承認された。

○協議案第2号 企業シャトル BaaS 社会実験事業の実施に伴う令和4年度変更収入支出予算(案)について

・事務局より、企業シャトル BaaS 社会実験事業の実施に伴う令和4年度変更収入支出予算(案)について、【資料2】【資料2-1】【参考資料】に基づき説明が行われた。

(質疑等)

(委員)

・参考資料上では、(5)運賃は1乗車1人200円程度という記載だが、事務局の説明では200円と言い切っていた。200円で良いか。

(事務局)

- まだ正式に決定できていないので、説明より参考資料の書面の方が正しく、1乗車200円程度。200円を基本に考えているところではある。

(委員)

- 事業名としては参考資料側の「湖西市企業シャトル BaaS 実証実験」という名称で良いか。資料2-1の方は「社会実験事業」になっていて、内容に影響のあるものではないが、タイトルはどちらか。
- 実証実験と書いてあるように、資料2-1の目的にある通り、需要や新しい交通ネットワークとして調査、検証ということなので、一旦は期間を定めて実証実験を行い、その成果などを検討し、検証期間が終わってからどうするかというところは、豊橋市側としてもしっかり考えて、引き続きなのか、見直すのか、撤退するのかを考えるとということによろしいか。

(事務局)

- おっしゃる通りの理解で良い。両市の事業名が若干異なっているところだが、湖西市は令和2年度から実証実験を行っており、今年3年目でかなり検討が進んでいる段階。その湖西市の取り組みに今回豊橋市側にも延伸し、今年度から初めて参画していきたいと考えているものなので、この新しい移動手段を本市にどう位置付けしていくかを社会実験で検討し、この地域により良い形になるかどうかを検討していければと考えている。

(委員)

- その点も資料の補足という意味合いで皆さんに伝わればと思った。

(委員)

- 企業シャトルの社会実験は非常に羨ましいなと思って見ていた。私が住んでいるところは賀茂町といって豊橋の中でも一番北側のバスも電車も何もない、移動手段は自家用車だけのところ。田舎に住んでいるので、我が家も自家用車は一人一台、自分の車で移動している。でも、だんだん年を取ってきて、免許を返納しようかと思った時に移動手段が全くない。コミュニティバスはあるが、私が通っている医療センターへ行くには、自分なら30分もあれば十分着いてしまうところが、2時間以上かかる。それから一日に本数もない。それでは病院に予約も取りづらくなってしまいうという非常に不便なところがあり、このコミュニティバスは全く利用していない。生活範囲は賀茂町という地域柄、豊川市へ出ることが多い。私の孫たちも国府高校へ行くので、豊川まで自転車で行き、それから通うという手段を取っていた。こういう企業シャトルの実験が、例えば交通の便が良いところもそうだろうが、交通の

便の悪い賀茂、石巻の方に豊川まで乗り入れることができるような企業シャトルをやっていただきたいと切に思った。見ていてとても羨ましいと思った。なんとかなると嬉しい。そうしたら私も心置き無く免許返納できている。なんとか老後が無事に暮らせるように公共交通を考えていただきたいと思った。

(事務局)

- 今回の企業シャトル BaaS の取り組みは、名前の通りシャトルバスを持っている企業のご協力というのがまず一つ大前提としてある。本市内でどこでもできる事業ではないと思っている。今回の原町、中原町、雲谷町もこの取り組みをいかに広げて行くかが今後のポイントと考えている。
- 一方、コミュニティバスも運行しており、かなりサービス面で限定的なのはおっしゃる通り。生活圏が豊川という話については、昨年度、北部地区の柿の里バスというコミュニティバスの運営委員会の皆様がアンケートをして、豊川に行きたいかどうかや、今までのサービスを減らしてでも短い路線を作るかどうかなど、色々な質問をして、今ちょうどアンケートを分析しているところ。ご期待に添えるような改革をしていけるように、地元の柿の里バス運営委員の皆様と一緒に考えていきたい。

(委員)

- 私は湖西市の BaaS の取り組みをお手伝いしているので、そちらの視点から申し上げますと、特にこのデンソー便は湖西市と豊橋市の工場をつないで運行されているものに住民の方も乗るのだが、デンソーの方が工場間の移動に普段使っているもの。そこに混乗させてもらうような形になるので、従業員の方から見てあまり遠回りになりすぎない、ちょこっと回るくらいで、これくらいならいいよと言ってもらえるくらいの範囲内で運行ルートを検討しているところだと思う。ただ、地区にもよるが、豊橋市には他にも大きな企業がシャトルバスを持っているところが多いと思うので、こういう新しい取り組みと既存のコミュニティバスの路線再編もうまく組み合わせ、地域全体の公共交通としてどういうサービスを提供して行くべきかをこの会議の場でも検討していきたいと思う。

(委員)

- この事業の資料を見る限りでは、定時定路線ということで、ダイヤもルートも決まっており、区域運行ではないが、予約をしないといけない記載になっている。予約というと面倒くさいこともあり、利用が伸びない気がするが、定時定路線でも予約が必要なのか。

(委員)

- 企業の方が乗る関係もあり、まとまってあまりにも乗ってしまうと、企業の方の利用に支障が出てしまう可能性があるのでは、ある程度利用人数を抑えなければならない

というところで予約制、デマンド運行にしている。逆に予約が入らなかった時は、今のルートに書いてあるような運行はせず、通常のシャトルバスの運行ルートになるので、最短経路で工場間を移動するようなルートに切り替わって運行される方式をとっている。確かに予約の抵抗がどれくらいあるかは、今回の実証実験の中でも調査をしながら確認をしていくところではあるが、過去2年間の調査結果を見ると予約自体にそれほど抵抗はなかったという感じはする。ただ、予約システムとしてスマホでLINEを使うことを検討しているが、それはまだやはり高齢者の方には抵抗があるということで、電話の受付を併用している状態。電話の自動音声で受け付けられるような仕組みも今年の実証内容に入っていると聞いている。

- ・議長から協議案第2号について諮ったところ、全会一致で承認された。

○協議案第3号 前芝地区「地域生活」バス・タクシーの臨時運行について

- ・事務局より、前芝地区「地域生活」バス・タクシーの臨時運行について、【資料3】に基づき説明が行われた。

(質疑等)

(議長)

- ・初めてご出席いただく方もいると思うので、ここ数年の経緯を補足いただければと思う。ずっとやっていたもので、ここ2年やっていないとの説明だったと思うが、そこについて追加していただけないか。

(事務局)

- ・豊橋まつりの臨時運行は、平成26年から行われていて例年80人前後の利用が今までであった。令和元年までは実施できていたが、令和2年、令和3年は豊橋まつりの中止に伴い運行していなかった。今年度は豊橋まつりをできるということで、この臨時運行を復活させたいと考えているところ。

(委員)

- ・今回、初めてというわけではなくて、これまでやっていて過去2年、豊橋まつりの中止に伴いできていなかったもので、今年は豊橋まつりは開催決定で良いか。

(事務局)

- ・はい。

(委員)

- ・状況に応じてか。

(事務局)

- もちろん。

(委員)

- 今のところは開催されるということで、それを期待しつつというところだと思う。
- 議長から協議案第3号について諮ったところ、全会一致で承認された。

○協議案第4号 令和5年度豊橋市地域内フィーダー系統確保維持計画（案）の策定について

- 事務局より、令和5年度豊橋市地域内フィーダー系統確保維持計画（案）の策定について、【資料4】【資料4-1～資料4-10】【参考資料】に基づき説明が行われた。

(質疑等)

(委員)

- 関係ないかもしれないが、賀茂しょうぶ園へ行く臨時バスが豊橋の駅から直行便で出ているが、割と本数が多く出ている。そういうことができるなら、賀茂町にもバスを通していただけたら良いなと思った。賀茂しょうぶ園に来る人で、バスの利用者は多いのか疑問に思った。なかなか料金が高かったのでどうなのか、バスで来る方が大勢みえるのかなとチラシを見て思った。

(事務局)

- しょうぶが綺麗な季節で賀茂しょうぶ園は最盛期。豊橋市の観光の部局で臨時のバスを毎年走らせている。実績は調べないとわからないので、また追ってご報告できればと思う。観光を盛り上げよう、しょうぶ園を盛り上げようという目的で、運行されているバスになる。

(委員)

- 私も何回かしょうぶがどういう状態かと足を運んだが、非常に良いところ。先週の土曜日、日曜日は天候にも恵まれ、豊橋市と協力して直行便を豊橋駅から運行した。確か3往復くらいだったと思う。正直、去年はコロナ禍もあり、会議の席で「しょうぶに人が集まるの？」ということで運行しなかったと思うが、コロナが落ち着いてきたことと、陽気も良くしょうぶも綺麗だということで走らせてみたら、かなりお客様が乗られた。具体的な数字はここにはないが、便によっては40名くらい乗ったと聞いている。今、電子のチケットなどを、豊橋市と豊橋鉄道含めて協力して発行しているが、しょうぶまつりのおかげで、バスセンターで126枚の往復チケットが売れて、

良い結果が残せたことを報告させていただく。

(委員)

- 先ほどこの議題の際に、賀茂しょうぶ園へ豊橋駅から直行の臨時バスが出たことへの感想、ご意見をいただいたところだし、先ほどの議題の中でもシャトルバスを同じように賀茂で走らせてもらいたいというご意見をいただいたところ。総じていただいた意見についてはこの参考資料の二次評価について、「期待する取り組み」の一番下のところにも間接的に関わって来るところ。住民の方の需要を把握し、住民の方々がご意見・ご要望を寄せられているアクセスや新しい交通の手法については、他の自治体との関連が必要かもしれないが、しっかり検討していただいでどうかというところを考えていただくことが、引き続き新たな路線や新しい公共交通の運行の手法など、特にシャトルバスが新しい取り組みなので、そういうところも色々総動員して地域公共交通を活性化していただく観点で、引き続きフィーダーの計画についても言わせていただくとところになる。このため、先ほどのご意見はやはりこうした会議の場でいただきたいところでもあった。

(議長)

- 本日、報告事項の最後で各コミュニティバスの路線ごとのご報告の中にも出て来るので、ぜひその際にもご発言いただければと思う。
- 議長から協議案第4号について諮ったところ、全会一致で承認された。

○報告第1号 「夏休み小学生50円バス」の実施に伴う運賃の変更について

- 事務局より、「夏休み小学生50円バス」の実施に伴う運賃の変更について、【資料5】に基づき説明が行われた。

(質疑等)

(議長)

- ずっと継続でやっているもので、コロナの期間もやっていたがその期間は利用が少なかったというもの。本来であれば、夏休みということでかなりお子様方のご利用も多かった。実績報告をご紹介いただける機会があると思うが、毎年多くの小学生の方々に利用されているものなので、引き続き続けていくということでご報告いただいたところ。

(委員)

- 50円というのは、例えば100円を50円にするような形か。

(事務局)

- 路線バスだと 200 円、300 円と上がっていくものだが、それが一律 50 円になる。コミュニティバスは地区によるが、一律 200 円のところもあれば、重量的に 300 円～500 円と上がっていくところもあるが、これも一律 50 円で乗れるようになる。

(委員)

- 差額の財源はどうなっているのか。

(事務局)

- 差額を補てんするものではなく、そもそもの運賃を 50 円にするので差額は生じない。運賃自体を 50 円にする。

(委員)

- それで利用を促進するという意味なのか。

(事務局)

- 小さい頃からバスやコミュニティバスに慣れ親しんでいただくという趣旨で行っているもの。

(委員)

- ご指摘のあった通り、事業者としては非常にちょっと…というところもあり、日本全国見ると、こうした企画をやめるようなところも実際ある。ただ、私どもは蒲郡市も含めて東三河の活性化等を考えている。例えば、豊橋市から伊良湖岬の路線については大人運賃 1,000 円を越すが、実はこの路線もこの期間であれば小学生は 50 円で乗れる。事務局がおっしゃったように、とにかく今のお子様にバスに慣れ親しんでいただくこと、そういう感覚で行っている事業。最近では、東京の小田急さんが子供運賃を 50 円にするようなことを言っているが、これからの時代、お子様を大事にしてバスのファンを一人でも多くするために、ただ財源については東三河の活性化として、なんとか豊鉄バスが頑張っていて続けていきたいと考えている。

(事務局)

- 負担というところで言葉足らずだった。補足させてもらおうと、豊鉄バスさまにご協力いただいている状況である。

(委員)

- 夏休みなのでお子様が 50 円になることで、普段乗らない親御さんも一緒に出て遠出するということがあれば、必ずしもマイナスではない可能性もある。かつ、その利用を体験できる期間があることが、次の利用につながる可能性もある。本来であればど

れだけマイナスになり、どれだけプラスになっているかというところもあるかもしれないが、単純に50円にして損失が出るという考えだけでなくもいいのかなという気はする。

(事務局)

- 1つ訂正がある。先ほど豊鉄バスさまと申し上げたが、コミュニティバスの運営委員会の皆様、各地域の皆様にもご負担いただいている。コミュニティバスが50円になった時の差額はコミュニティバスの地元の皆様、そして豊鉄バスの時は豊鉄バスさまにご負担いただいている。

○報告第2号 東部地区「地域生活」バス・タクシー停留所名称の変更について

- 事務局より、東部地区「地域生活」バス・タクシー停留所名称の変更について、【資料6】に基づき説明が行われた。

○報告第3号 豊橋市地域公共交通網形成計画に基づく令和3年度実績及び令和4年度予定について

- 事務局より、豊橋市地域公共交通網形成計画に基づく令和3年度実績及び令和4年度予定について、【資料7】に基づき説明が行われた。

(質疑等)

(委員)

- 戦略1の22番「路線バスへのICカードの導入」というところをご覧いただきたい。実は去年の同じ時期の資料には、ICは継続して検討するとなっていたが、私どもは2024年度の末、2025年3月のスタート、サービスインを目標としてICカード「マナカ」を導入することを決定している。その理由としては、今更ながらかもしれないが、特にコロナ対策、現金の取り扱いについてやはり非接触という観点から言っても必要不可欠ということ。それから先ほど説明にあったように、MaaSの戦略の一貫であるということ。それから、だいぶ世の中の人々の動きが活発になってきて、県民割等、他府県からのお客様が来られる時代になっているが、日本国内のみならず海外からのインバウンドの外国人の方が、ICカードでスムーズに決済できるシステムを導入しなければならないということ。それから最後に、交通系のICは流通やコンビニエンスストアでも使える。その結果、ICカード「マナカ」の導入によってさらなる東三河の活性化の一助にしたいと考えている。

(議長)

- かなり色々新しい取り組みなどを計画されているようなので、もし不明な点があれば

この後でも内容を聞いていただければと思う。

○報告第4号 地域運営団体の取組の報告について

- オブザーバーより、東山バス運営協議会の取組について、【資料8-1】に基づき説明が行われた。
- オブザーバーより、石巻・下条地域交通推進委員会の取組について、【資料8-2】に基づき説明が行われた。
- オブザーバーより、表浜地域公共交通推進委員会の取組について、【資料8-3】に基づき説明が行われた。
- オブザーバーより、しおかぜバス運営協議会の取組について、【資料8-4】に基づき説明が行われた。
- オブザーバーより、かわきたバス運営委員会の取組について、【資料8-5】に基づき説明が行われた。

(質疑等)

(委員)

- コミュニティバスの運営委員は大変ご努力をされていると思うが、特に東山バスさんと柿の里バスさんは、令和3年度に支援会員の募集という項目があった。これについては、東山バスさんの運営の一助という部分で、支援されたお金を利用されているという判断で良いのか。
- また、支援会員がわざわざ一口1,000円も出して特典としては何かあるのか。石巻の方は柿の里バスポート引換券という部分があったが、ここについてはいかがか。
- また、もっと支援会員が増えていく可能性はあるのか。

(オブザーバー)

- 支援会員は1,000円でサポーター券を買ってもらう。1,000円買っていただいて、そのまま実質上の寄付という場合もあるし、1か月乗車100円で乗れるバスポートと交換できるので、よく乗られる方はそのバスポートに換えて乗られる方もいる。石巻地区では、自治会中心にお願いをしているので、以前だとこのサポーター券をある程度、各自治会で「何枚くらいお願いしたい」としていたが、実質役員が負担している形になってしまった。それは本来の姿からはおかしいのではないかとということで、柿の里バスでは、このところサポーター券の購入は減っているのが現状。

(オブザーバー)

- 東山バスは、昨年は支援会員77名、91口。これは当初から「コミュニティバスを長く続けてほしい。途中で乗る方が少なくなって、支援できなくなっては困る」という意見が地元の会議の場でもあったため、存続の意味を込めてやっている。

- 特典としては 1,000 円の支援をいただくが、200 円の回数券 2 枚、つまり 400 円を領収と同時にお試し券として渡して使っていただいている。通常だと東山バスはどこまで乗っても 200 円だが、一区間 100 円で乗れるところもある。そういうお客様を掘り起こすために、これとは違うが、敬老会で町内から 100 円券の 12 枚綴り、1,200 円分を敬老の方全員に配った。去年は 186 名の方が 75 歳以上だった。配ってもコミュニティバスに乗れない方も中にはいる。そういう方には、もらっても仕方がない、友達や知り合いにあげてしまうということで、副賞として食器用洗剤を一つつけた。これが利用促進になっているかどうかはわからないが、話を聞くと 100 円で使えるところは 100 円券、200 円のところは 200 円券を使う。また、身体障害者の方はどこまで行っても半額で乗れるという制度を利用しているので、その 100 円券を有意義に使わせてもらっていると聞いている。

4. 意見交換

意見なし

5. 閉会

- 事務局長の都市交通課長から閉会の挨拶があり、会議は終了した。

以上、議事の正確を証するため署名押印する。

豊橋市地域公共交通活性化推進協議会委員 ④

豊橋市地域公共交通活性化推進協議会委員 ④